



周波数領域レベルに対応した騒音の計測評価

騒音の種類・周波数領域に応じて、最適な計測方法・条件をご提案いたします。

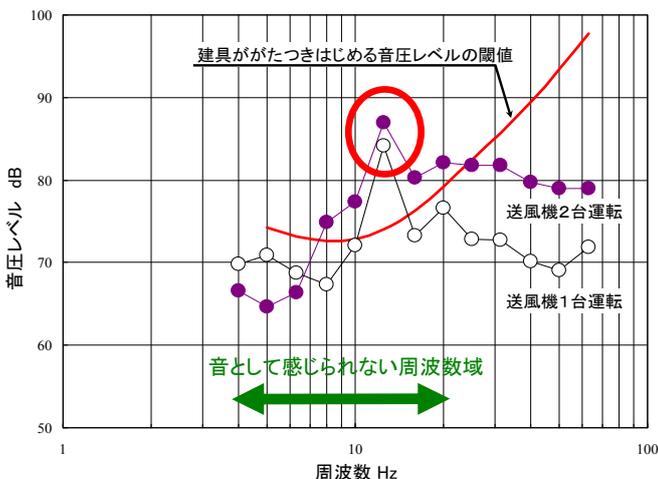
計測技術の特徴

- 環境問題となる騒音は、通常は、人間が音として感じられる周波数領域(20Hz～20kHz)の騒音です。
- ところが、音としては明確に感じられない低周波数の騒音(低周波音と呼ばれる、100Hz以下)や、まったく音として認識できない極めて低い周波数の騒音(超低周波音と呼ばれる、20Hz以下)が、問題となることがあります。
- 騒音の計測評価にあたっては、その騒音の周波数特性に合わせた最適な計測方法・計測機器を選定する必要があります。JFEテクニサーチでは、各種の計測評価技術を用意しています。

騒音の周波数による分類と主な発生源(実施例)

環境問題としての騒音の種類:対応する周波数領域			
超低周波音領域 Infra-sound (音として感じない 空気振動)	低周波音(騒音)領域 Low frequency Noise (騒音として聞こえる 一般に不快感を伴う)	一般騒音領域 Noise (公害問題、一般騒音の周波数域)	超音波領域 Ultrasound (耳に聞こえない)
~20Hz	100Hz	1kHz	20kHz (周波数)
橋梁振動 大型送風・集塵機 工場プラント設備 風力発電設備 etc.	大型送風機 大型集塵機 振動利用設備 工場プラント設備 etc.	工場プラント設備 土木建設・解体工事 道路交通騒音 航空機・鉄道騒音 etc.	

● 超低周波音(大型送風機)の計測評価例



● 一般騒音の過渡特性の計測評価例(ソナグラフ解析)

